CHIBA UNIVERSITY PRESS

帝京平成大学 ユニバーシティプレス

大学生記者が編集

新・千葉キャンパス誕生へ

人と実践的な学びつなげる

現在潤井戸にある千葉キャンパスは、来年度には新キャンパスへと移転します。移転後のキャンパスは「千葉キャンパス」として運用し、現在の千葉キャンパスは「千葉スポーツキャンパス」と名称が変更され、部活動や帝京平成スポーツアカデミーの拠点として活用される予定です。では、新キャンパスは現在のキャンパスとどのように変わるのでしょうか。移転について施設担当者に詳しく聞きました。

（露﨑優和、田中春圭、神尾美月、二宮由衣）

Q&A 来年度移転 どう変わる？



新ちはら台キャンパス 上学園通りから



下かずさの道側から撮影

（撮影：二宮由衣）

Q1. 新キャンパスで学生に利用してほしい所はどこですか？

A1. 2階のラーニングコモンズです。現在の学生ホールやイベントホールのように、課題やグループワークができるスペースとなります。カフェにいるような気分で、空きコマや授業後に集中して勉強に取り組める場所になってほしいです。

Q2. 新キャンパスで特にこだわったポイントはありますか？

A2. 学生同士の交流を通して新しい学びを得る所になるようこだわりました。6・7階の交流スペースでは先生と学生が気軽に交流ができます。他人の姿が見えることで高めあえるようなキャンパスにしました。

Q3. 現在のキャンパスと比べてどんな所が大きく変わりますか？

A3. 新たにシミュレーション室を設置することで、事例の患者にどう対応するかを検討していくことができるようになり、ここでも学生同士の交流が可能です。実践的な演習により実学に繋がることを期待しています。

Q4. 新キャンパスへの移転で、苦労したことは何ですか？

A4. 水道設備をどこに設置するかや人が通りやすい机とイスの間隔の調整です。実際の利用場面を考えながら決めることを意識しました。

Q5. 新キャンパスを、今後どのような場所にしていきたいですか？

A5. さまざまな人との交流が生まれる施設にしていきたいです。学生や教職員だけでなく、さまざまな人が交流できる場所にすることで、地域貢献や実践教育をより高めていきたいと考えています。

活気あふれる希望（みらい）紡ぐ ―ちはら台TENT―



ちはら台TENTの中にある店舗の1つ（撮影：羅錫陳）

近年、オンラインの交流が増える中、外に出て直接人と関わりスポーツを楽しむ大切さが見直されている。市原市のちはら台では、世代を超えたリアルなコミュニケーションを育む街づくりが進む。地域住民や大学、企業が一体となり、多様な活動やスポーツの場を創出。「縁」を繋ぐ拠点「ちはら台TENT」をはじめ、人と人が直接触れ合い、活気あふれる街の未来へ歩みを進める。

2024年に誕生した「ちはら台TENT」が、今さらに大きな展開を見せている。館内には地域に根差した魅力あふれる店舗が立ち並ぶ。

自家製だしの本格つどんと卵不使用の人気ドーナツを届ける「千輪舎」や房総ジビエなど地産地消の料理が味わえる「時代家88Food Camp」、女性専用の肌質改善を叶える美容サロン「Camel Luxe Salon」が入居。さらにピラティスやダンス教室などが開かれる「TENT SCHOOL」も併設され、連日多くの世代の人たちで賑わう。また、住民と一体となったコミュニティー活動も盛んだ。「みらいサポーター」や学生ボランティア「あそ☆ぼら」と連携し、朝のラジオ体操や子ども向けの外遊び大会、みんなで食卓を囲む「ちいき食堂」まで多種多様なイベントを展開し、オープンからの年間来場者数は約3万人に達した。子どもからシニアまで日常的に立ち寄れる、まさに「第三の居場所」として定着している。

取材に応じた大和ハウス工業の菅田佳大さんは「地域の中で人が循環することによって、その地域がずっと活気のあるエリアになっていくのではないか。そこを循環させる方法を考えている」と力強く語った。単なる公園内の商業・公共施設という枠組みを超え、店舗事業者と住民、ボランティアが手を取り合い、にぎわいと笑顔を自ら循環させる仕掛けが動き出している。「20年後も子どもの笑顔が溢れる市原」の実現に向け、ちはら台のあたたかな挑戦はこれからも続いていく。

（羅錫陳、長谷川楓）

地域サロンで高齢者と交流

作業療法士目指す学生 笑顔で会話、貴重な体験



うるいど団地内のサロンで高齢者とレクリエーションを行う学生（撮影：崎廣結菜）

うるいど団地では、地域の高齢者を中心に、月に数回サロンが開かれている。会場には地域の方々が集まり、体操やスポーツなどを通して、楽しみながら身体を動かしている。

今回、作業療法士を目指す学生たちがサロンに参加し、地域の方々と楽しめるレクリエーションを企画した。高齢の方でも無理なく参加できるよう、身体への負担が少なく、自然と笑顔になれる活動を考えた。

当日は、学生と地域の方々が一緒にレクリエーションを楽しみ、会場は笑顔と会話に包まれた。参加者からは「普段、若い人と話す機会がなかなかないので、とても楽しかった」との声も聞かれた。

学生にとっても、地域の高齢者と交流する貴重な機会となった。今回の経験を通して、楽しさだけでなく、一人一人が無理なく参加できることの大切さを学んだ。地域の中で作業療法を考える経験は、学生たちの新たな学びにつながっている。

（崎廣結菜、高梨万葉）

「学生自治会」設立提案

若い視点生かし活性化へ

ちはら台地区自治会連合会



ちはら台の自治会会長と対談する学生（撮影：中島隆介）

ちはら台地区自治会連合会は、帝京平成大学ちはら台キャンパスでの「学生自治会」設立を大学側に提案した。地域活動の担い手不足が進む中、学生と地域をつなぐ新たな仕組みとして期待されている。

ちはら台地区では、防災・防犯活動や子どもへの支援、見守り活動など、自治会が担う役割が増えている。一方、活動を支える人材は限られており、継続的な担い手の確保が課題となっている。

令和9年4月に開設される帝京平成大学ちはら台キャンパスには、健康医療やスポーツ分野を中心に多くの学生が学ぶ予定だ。自治会連合会は、学生が持つ若い世代の視点や専門性を地域活動に生かすことで、地域の活性化につなげたいとしている。

学生自治会では、市民祭や子ども会行事、防災・防犯イベントへの参加や企画協力、防災訓練や見守り活動への協力などを想定。さらに、学生目線を生かしたチラシやポスターの作成、SNSによる情報発信、新入生向けの地域生活ガイド作成なども活動案に挙げられている。

地域と大学が新たなパートナーとして歩み始める中、学生自治会が、学生と地域住民をつなぐ架け橋となることで選ばれる大学そして住み続けたい町を作っていくことが期待されている。

（新田啓智、丸山怜恩）

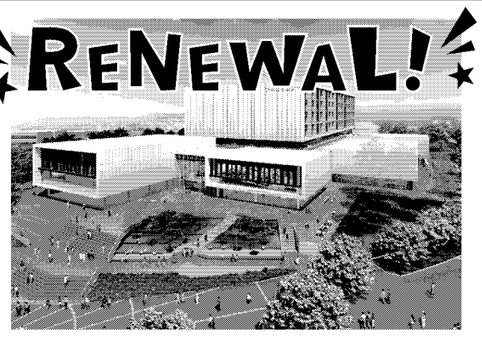
帝京平成大学 実る、学びを。

TEIKYO

OPEN CAMPUS
11.7(土)：池袋
11.14(土)：中野
※学園祭同時開催のため「入試相談」「キャンパスツアー」のみ実施。

ちはら台※2 2027年4月 キャンパス

RENEWAL!



ちはら台※2キャンパスの既存校舎を一新し、健康医療スポーツ学部のメインキャンパス化に向けて全面リニューアル中!!

●健康医療スポーツ学部　移転スケジュール

2026年度	2027年度以降
千葉キャンパス	ちはら台キャンパス 新校舎

※1:千葉キャンパスは、2027年度より千葉スポーツキャンパスに名称変更予定です。
※2:ちはら台キャンパスは、2027年度より千葉キャンパスに名称変更予定です。

入試相談 0120-918-392

■全国屈指の国家試験・資格試験合格者数 ※2025年実績 大学通信調べ
医療・福祉施設等での勤務経験がある教員が、国家試験・資格試験に向けて過去問演習や模試対策など徹底した対策を実施。
図書館や自習もできるフリースペースに加え、国家試験対策用の教室を設定し学修環境を整えています。

全国第1位 柔道整復師
全国第1位 はり師
全国第1位 きゅう師
全国第2位 作業療法士
全国第2位 理学療法士
全国第2位 救急救命士
全国第3位 助産師

■帝京平成大学の特長

01 最新の設備と環境 首都圏4キャンパス
池袋、中野、千葉※1、ちはら台※2の4つのキャンパスを有しています。通学や実習先へのアクセスが便利な立地で、キャンパスライフを満喫できる環境が整っています。

02 即戦力を育てる 徹底した実学教育
企業や地域の方々との交流や海外研修など、実践を通した学びを体験することで即戦力を育てます。

03 先生との距離が近い
各分野のスペシャリストでもある先生によるサポート体制が充実している帝京平成大学。相談にも親身に対応しており、安心して大学生活を送ることができます。

04 未来を見据えた 多様な学び
多様な社会で活躍できる人材を養成するため、データサイエンスやSDGsについて学修する授業を実施しています。

■就職実績（2025年度実績）
帝京平成大学では各学科・コースでキャリアに直結した学びを展開。学生一人ひとりに合った進路・就職支援を行い、多くの卒業生が様々な分野で活躍しています。
就職率 98.9%

大学の詳細はこちらのQRコードから